



瀬田の丘

創刊 1973年

編集・発行／カトリック瀬田教会信徒会広報部
東京都世田谷区瀬田 4-16-1



今日のみことば

復活節第3主日B年(2021年4月18日)

瀬田教会主任司祭 小西広志神父

第一朗読：使徒言行録 3章13－15、17－19節

第二朗読：使徒ヨハネの手紙一 2章1－5a節

福音朗読：ルカによる福音 24章35－48節

テーマ：^き気づきをもたらし^{ふっかつ}てくれる復活したイエスさま

三つの朗読から

第一朗読にある「拒む」という言葉に注目しましょう。実は、今日の朗読箇所は初代教会の信仰のエッセンスを含んでいます。初代教会が外に向けて自分たちの信仰を宣言した際の短い言葉でまとめられた信仰のエッセンスを「ケリュグマ」と呼びます。日本語では信仰の「使信」と呼んでいます。13節までがイエスさまがどなたであったかを明らかにする「ケリュグマ」の前半部分で、14－15節がイエスさまが復活なされたことを示す「ケリュグマ」の後半部分です。両方をつなぐ言葉として「拒む」が二度登場します。神さまが栄光をお与えになったイエスさまを人々は拒みました。人々に拒まれて殺されたイエスさまを、神さまが死者の中から立ち上がらせてくださったのです。人間の拒みから生じたイエスさまの十字架での死は、人間の「無知のため」(17節)に起こったことです。しかし、神さまは、この無知による拒みを利用して、救いをもたらしたのです。

第二朗読では「守る」に注目しましょう。三回登場します。ギリシア語で「テーレオー」と言います。この単語は新約聖書の中で70回用いられます。「見張る、監禁する」が元々の意味です。そこから派生して「取っておく、保護する」の意味が生まれます。そして「保存する、守り抜く」の意味が生じ、律法や教えを「遵守する」という意味へと展開します。

『ヨハネ文書』(ヨハネによる福音書、ヨハネの手紙一、二、三、ヨハネによる黙示録)では、「遵守する」の意味で使われます。イエスさまと天の御父とが示した言葉と掟を「守る」ことが求められるのです。この「守る」は、「愛する」、「知る」といった単語と結びついて御父と御子の親しく深い交わり、あるいは御子と弟子たちとの深い交わりを示す表現となります。イエスさまが御父からの掟を守るのは、御父がイエスさまを愛しているからです。そしてイエスさまが御父のお心を知っているからです。同

じようにイエスさまに愛された人は、「互いに愛しあいなさい」というイエスさまからの掟を守る人となります。なぜなら、神の愛を知っているからです。だからこそ、掟を守ることが可能となるのです。

福音朗読は、復活の日の長い一日の最後の場面です。「聖書を悟らせるために彼らの心の目を開いて」(45節)とあります。復活されたイエスさまは、わたしたちの心の目を開いてくださる方なのです。心の目を開かれた人は、新しい視点から世界を眺めます。その結果、聖書の言葉を悟ることができるのです。こうして、無知から解放されて、神さまの救いの思いを知るようになります。わたしたちは、開かれた心の目で、今の社会を眺めているでしょうか？ 旧態依然としたモノの見方に固執してはいないでしょうか？

説教

分かりやすく、分かりやすく、を信条に生きてきたわたしですが、最近、ちょっと難しい表現を使ってもよいかと思っています。特に子どもたちに話す際には、子どもが分からなくてもよいから、大切な表現を言葉で、フレーズで伝えてもよいかと考えています。きっと子どもたちの記憶の片隅に残って、いつか、思い出して、「ああ、あの時の神父さんのお話の意味はこのことだったのだ」と気づくと信じているからです。分かりやすいお話はすぐに消えてなくなります。ちょっと難しいお話は心に残るからです。分かりやすいテレビのコメンテーターのお話はすぐに忘れませんが、手強い言葉が並ぶ新聞の記事は心に残るのと同じです。

イエスさまと3年間にわたって寝食を共にしたお弟子さんたちはイエスさまがおっしゃる言葉の意味が分からなかったでしょう。まったくといってよいほど分かっていなかったと思うのです。だから、十字架での死を前にして怖くなって逃げてしまいました。勝手な理解をイエスさまにあてはめていたのです。

しかし、復活したイエスさまに出会って、気がつきます。「ああ、あの時のイエスさまのあの言葉、あの行いは、こういう意味だったんだ」と。そればかりか、聖書の言葉の本当の意味にも気がつきます。「聖書の言葉の一つひとつは、イエスさまの復活を準備していたのだ」と。こういった気づきは大切な体験です。

人間は、そうそう頭脳明晰ではありません。むしろ第一朗読にあるように無知なのです。しかし、その無知が責められることはありません。無知な人間は、復活したイエスさまによって気づかされていくのです。こうして、イエスさまが残してくださった「互いに愛しあいなさい」という掟を心に留めて、守ることができるようになるのです。

聖書の言葉が分からなくても心配しないでください。今はただ、聖書の言葉の一節でも心に刻み込むことが大切なのです。いつか、復活したイエスさまは、それを分かせてくださいます。その時、新しい視点、新しい世界が開けていくことでしょう。